

見えないものの 見える化（４）

兵庫県立芦屋特別支援学校

平成30年11月14日(水)

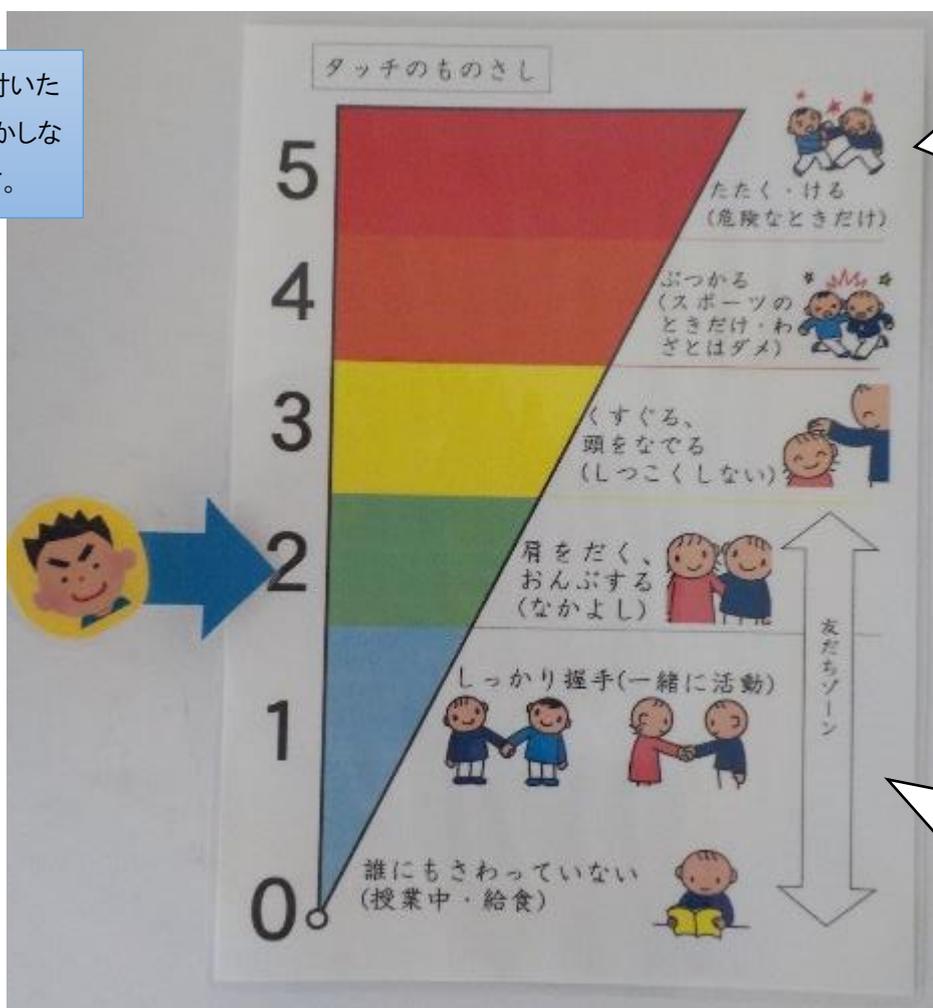
地支セン通信 No. 11

「タッチものさし」

子ども同士のトラブルは接触する場面で起きることが多く、偶発的に起きるトラブルもたくさんあります。そういった場面でも基準となる数値化されたものさしがあれば、何が良いのかの学習ができます。

そんな時の「見える化」アイテムは…？

実際に、顔の付いた青い指標を動かしながら説明します。



「4は危険なので、2で友達と遊びましょう。」

「友だちと一緒に活動する時には、1でお願いします。」

※カードの絵は、「ドロップス」＝視覚支援シンボル集から使用しています。

このようなものさしを使いながら、触れ方、触れられ方を学ぶ機会を作っていくことで、暗黙のルールの可視化ができます。



「声のものさし」(地支セン通信No. 10)、「タッチものさし」を掲示物として
「貼りっぱなしにしない」

身に付くまで徹底的に使いこむ、身に付いたと感じたらはずしてみる、まだ定着していなかったら再度学習し直すといった「活用」が大切です。